

提出日： 2024 年 4 月 30 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	若林茂則

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日
	2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日
	3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日
活動報告	4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日
	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。
	海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	申請者がこれまで進めてきた海外と日本の学校を結んで行う協同授業の手法とその効果を、教育工学の視点から測定しつつ、より多くの現場で活用できるように、アジアの諸外国の教育機関などとの協力関係を結びながら、外国語教育開発研究を進めた。工学的研究の見地からは、国や地域によって異なる協同授業の設置のための諸条件とアドミニストレーションの過程を明らかにしていくとともに、共同研究に必要な ICT などのインフラ整備や人的資源の確保の方法についても、タイ、台湾、インドネシア、日本の教員・研究者の協力を仰ぎながら、諸外国における日本の機関・組織からも情報を得て、協同授業実施のスタート・実施・振り返りまでの過程を記録した。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	ICT を用いた協働授業による外国語教育開発と実施を行った。得られた研究成果は以下の論文等で発表した。＜論文＞1) “The Impact of the SMILE Project on Thai EFL Learners: Collaborations between Thai and Japanese L2 Learners,” <i>LEARN Journal: Language Education and Acquisition Research Network</i> 17(1) 662-687, 2024. 2) “Lessons Learned from Intercultural Communication Classes of the SMILE Project,” <i>AsiaTEFL Proceedings 2023: Papers from the 21st AsiaTEFL Conference AsiaTEFL</i> . 1021-1033, 2023. 3) “Participants’ Net Promoter Score on the Students Meet Internationally through Language Education Project,” <i>The 17th International Conference on e-Learning and Digital Learning (ELDL2023)</i> , 200-204, 2023. 4) 「-通じるという喜びと驚きとをもって上手くという叫び-『実践的』とは比べものにならない『実体験』」『KELES ジャーナル』8, 18-26, 2023.
	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	研究促進期間中に得られた研究成果に基づいて、英語教育および言語習得・使用に関するデータ収集の基盤を構築することができた。文化的言語的背景の違いが、インタラクションに影響を及ぼすことはよく知られているものの、アジアの学習者間の英語によるインタラクションの実態はほとんど知られていないため、異なる言語を母語とする場合、英語でのやり取りの中で構築されるインタラクティブ・コミュニケーション(IC)がどのようなものか、いかにして記述・説明すればよいかという問題について、すでに存在する問いに対する答え追究するだけでなく、新たな問いを発見し、研究領域を開発する計画である。最終的には、英語による IC の実態と参加者の能力・発達、学習者間の違い等を明らかにするとともに、リングフランカとしての英語の使用実態を明らかにし、インタラクションに基づく新たな指標と振り返りのための尺度とその活用方法を提案する。
今後の計画について	